

令和6年度第1回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体会議録

議題	1 買い物支援（宅配）情報の周知について ① 茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイトについて （高齢福祉課） ② グループワーク テーマ「サイトの周知にあたり、各団体等ができること」 2 今後の生活支援体制整備事業の取組について ① 第2層地域支え合い推進員の活動報告（社会福祉協議会） ② グループワーク テーマ「地域の課題解決に向けて、各団体や地域で取り組めること」 3 その他
日時	令和6年7月25日（木）13時30分から15時30分まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階A・B会議室
出席者氏名 （敬称略）	松井 新吾、石黒 秀樹、山田 裕子、若林 英俊、飯田 直士、 濱田 栄子、堀内 秀行、菅谷 和一、池田 富士夫、鶴田 國夫、 小山 紳一郎、瀧田 美穂、松尾 由香、本多 祐子、奥村 千尋 （欠席委員） 石井 久美子、吉野 浩二 （オブザーバー） 増田 陽子 （事務局等） 谷久保 康平、太田 雅世、加藤 愛華、加藤 絵里 小島 幸子
会議資料	・次第 ・茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体 構成員名簿 ・資料1：茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイトについて ・資料2：令和5年度 第2層地域支え合い推進員の活動報告 ・参考資料1：生活支援体制整備事業第1層協議体 構成員所属団体活動状況（令和6年度） ・参考資料2：茅ヶ崎市生活支援体制整備事業実施要綱
会議の公開・非公開	公開

非公開の理由	—
傍聴者数 (公開した場合のみ)	0 人

1 開会

【茅ヶ崎市福祉部長：谷久保 康平】

本日は、ご多忙のところ当該協議体にご出席いただき、誠にありがとうございます。
さて、全国的に高齢化が進んでいるところ、本市におきましても、7/1現在の高齢化率は26.7%となり、高齢化は進んでおります。

生活支援体制整備事業につきましては、高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるよう、地域住民が世代を超えて共に支え合い、日常の困りごとを地域住民と多様な活動主体が連携、協力し、解決できる地域づくりを推進することを目的としております。

平成29年度に本事業を開始してから、外出や移動、担い手不足、買い物支援などについて、構成員の皆様からのご意見をいただきながら、取り組んでまいりました。

困りごとを抱えている高齢者を地域でどのように支えていくか、そのための仕組みを地域でどのように構築していくかは、様々な地域の支え合いの取組を行っていく上で、非常に重要な課題であると認識しております。

本日は、前半は、昨年度から継続してテーマとなっている、買い物支援に関する情報提供について、後半は、今後の生活支援体制整備事業の取組について、をテーマに、構成員の皆様からのご意見を賜れば幸いです。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 買い物支援（宅配）情報の周知について

① 茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイトについて（資料1）

説明 【第1層地域支え合い推進員：太田 雅世】

茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイトについて報告をさせていただきます。本議題については、昨年度より出席されている構成員の方には繰り返しの内容となりますが、資料と画面を見ながら、報告させていただきます。

まず買い物支援情報の提供につきまして、運転免許の返納、加齢等による身体機能の低下、店舗の減少などの様々なことで買い物に支障が生じているという課題が見えてきたことに伴い、買い物支援情報の一元化に取り組みました。

茅ヶ崎市ホームページの画面をご覧ください。昨年までは「茅ヶ崎市地域包括ケア支援

システム」と言う名称のサイトでしたが、今回名称も変更いたしまして「茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイト」として、令和6年3月より情報提供を開始しています。

市ホームページのトップページにある「シニア向け情報」をクリックすると、「シニアの情報をギュッと集めました」というページが表示され、リンクの一覧から「茅ヶ崎市暮らしを支える地域の情報サイト」のページを表示することができます。

このサイトに「買い物支援（宅配）」という項目を増やしています。掲載されている情報は、市内店舗の情報、宅配弁当、食材等配達などがあります。例えば、宅配弁当などは市内に多くの店舗があり、掲載しています。デリバリーサービスについても掲載先を増やしたかったのですが、問い合わせをしても返事をもらえなかったり、掲載許可がいただけなかったりするところが多く、掲載は2社となっています。例えば、宅配ピザについてはどこからも掲載許可をいただけなかったのですが、宅配寿司や宅配釜飯については多くのお返事をいただき、配達可能な住所まで掲載しています。

これまでの経過については資料の項番2を参照いただけたらと思います。令和4年9月の第4回ちがさきオレンジDAYでのシンポジウムに始まり、昨年8月のこちらの第1層協議体で検討を行ってまいりました。昨年の時点ではkintoneを活用していきたいと説明をしておりましたが、実際に活用を想定していた市内店舗の情報が3社のみの掲載となっているため、現時点では検索システムを使用する必要がないため、kintoneの活用は見送っています。

項番3の周知について、令和5年12月に募集のチラシを配架しておりますが、今回、資料にありますように、チラシの内容を見直ししています。また、サイト周知のためのチラシを新たに作成しました。チラシは実際のホームページのレイアウトを参考に作成し、裏面に買い物情報についての案内を掲載しています。チラシには2次元コードを掲載して、直接サイトを表示できるようにしています。

今後は、こちらのチラシを活用した広報を行っていきたいと考えているので、本日皆様よりご意見をいただけたらと思います。

項番4については、サイトのアクセス数を掲載しています。令和5年度は1,400～1,600件で推移していましたが、令和6年3月の公開後は、1,800件、1,900件と、確実にアクセス数は伸びてきています。今後も更に伸ばしていきたいと考えております。

資料の説明は以上となります。

【質疑応答】なし

②グループワーク

テーマ「サイトの周知にあたり、各団体等ができること」

説明 【第1層地域支え合い推進員：太田 雅世】

報告にもございましたとおり、必要な方にサイトを活用していただくためには、効果的に周知を図っていく必要があります。本日は、「サイトの周知にあたり、各団体ができること」というテーマで、グループワークを行います。

司会は各グループの名簿の名前に○がある方をお願いします。書記は事務局のスタッフが行います。構成員の皆様の中から発表者を決めていただけたらと思います。

グループワークの時間は20分間といたします。発表は各グループ3分程度でお願いいたします。

事務局からの説明は以上となります。各グループの司会の皆様、進行をお願いします。

【グループワークの実施】

「サイトの周知にあたり、各団体ができること」をテーマに、3つのグループに分かれてグループワークを行った。

【グループワーク結果の発表】

グループ1 発表者【茅ヶ崎市地域包括支援センター 濱田 栄子】

介護サービス事業者連絡協議会からは、広報については、介護保険に関してサービスを行っている事業所があるため、チラシによる広報ができる。アクセスのしやすさとしては、QRコードを使ったアクセスがしやすいため、紙による広報が良いという意見がありました。

社会福祉協議会からは、配達などの情報収集などの実施していく中で、これからの情報収集の継続が課題との話があった。また、住民からは「見て選びたい」という声があり、車での移動など、支援についての課題、チャリティなどで車の確保はできるが、マンパワーが不足しているという課題があげられました。

アクセス数については、思っている以上にアクセスがあると地域包括支援センターとしては感じましたが、離れている家族が情報収集として使って、本人や家族に伝えることもでき、また、QRコードであれば、高齢者でも使える方が増えているため、使いやすいと思いました。

ホームページからサイトに入るとするのは難しく、文章だけだと視覚的に難しい部分もあるので、QRコードの掲載で直接サイトが表示できることで、チラシとしては改善され

たのではないかと思います。

民生委員からは、定例会での周知ができ、民生委員は市内でくまなく活動しているので、かなり多くの方に広めることができるという意見がありました。

市内の個人商店で配達可能な店舗を増やしていくかが課題ですが、ウーバーイーツなどの活用で、高齢者でも使えるようにしていく必要があります、また、スーパー等もそれぞれのフランチャイズ店などで配達はしているが、まだ配達を実施していない大手スーパーもあるので、そこに対して働きかけをしていく必要があるという意見がありました。

グループ2 発表者【茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 石黒 秀樹】

周知について、情報を集めたいという点と利用してもらいたいという点について、話しました。

情報を集めたいという点については、商工会議所がそういったことは得意ということで、市内1800事業所のうち、小売業をしているところに案内をした結果、3者から反応があったということなので、引き続き、会報などの会員向けのもので案内をしながら、他業種も含めてメーリングリストで発信するという方法で、情報を集めることができるという意見がありました。

利用してもらう方法については、ケアマネの団体に、サイトについての情報を市の方から発信してもらえると、会員向けに情報が流すようになっているので、そういった形でご高齢の方に周知をすることができます。

また、訪問に月1回行きますので、チラシで案内をして、ご家族にもこういったサービスがあるので使ってみませんかをご案内できるのではないかと思います。

シルバー人材センターでは、会員向けの会報で周知することはできるということで、現在940人ぐらい会員がいて、会員に向けて情報発信することで、色々な方に繋がれるということでした。

地区社協では、今は買い物代行が多く、自転車で行ける範囲に行っているが、買い物に行ってしまったほうがいいのか、このようなサイトを周知していった方が良いのかといったことが、今後課題かなという意見がありました。

利用者はネットスーパーが使える人ばかりではないので、操作についてボランティアに周知していく必要もあるのではということで、ボランティア向けの操作方法についての講習会なんかも今後検討していく必要があるという話がありました。

あとは、歩ける人ばかりではないが、介護予防という部分では、歩ける方、本人にまず参加してもらって、そこで交流の機会があるので、そこでご案内をしていくという話がありました。

また地域の方だけが知っている配達してくれるお店など、地元の店舗情報などもあれば

載せたいということで、皆さんの方から情報を上げてもらえると良いとの意見がありました。

グループ3【茅ヶ崎市老人クラブ連合会 鶴田 國夫】

私は老人クラブの会長をしています。住んでいるのは湘南地区で、老人クラブの会員は、今、70歳以上の方が非常に多く、平均年齢は80歳を超えてしまっている。そのような中でスマホができるかというところ、ちょっと難しいところがあります。老人クラブ連合会としてもスマホ教室をしている最中で、そのようなことをしていかなないと、まず初歩にたどり着かないという状況です。そのため、何か紙で渡せる情報があればと思います。

買い物に行く場合、重いものがもてないから行きたくないということもあります。湘南地区ではおでかけワゴンをやっている（資料配布）1台の車が湘南地区からハマミーナに向けてぐるぐるまわっているのが実態で、現在は満杯の状態になっているため、この先どうするかが課題となっています。

前提としてやっていかなくてはいけないこと、QRコードからのページの開き方、ご家族への支援をどのようにしていくかということがあります。

市民の利便性を高めるためのDX化や、身近なところで教えてもらえる場があると良いという意見、最後にはサイトのデザインを見直して、もっと見やすくした方が良いという意見が出ました。

（2）今後の生活支援体制整備事業の取組について

① 第2層地域支え合い推進員の活動報告（資料2）

説明 【第2層地域支え合い推進員：加藤 絵里】

資料2の令和5年度第2層地域支え合い推進員の活動について、報告させていただきます。社会福祉協議会では、市からの委託を受け、地区の担当職員が市内13地区の支え合い推進員として活動しています。社会福祉協議会の職員は、もともとその地区の支援をするために、13地区の担当をもって、それぞれが担当する地区において皆様の活動を作ったり検討したりするためにお邪魔しています。その活動と併せて、この事業の第2層地域支え合い推進員としても活動しております。

会議の場面や地域での活動を一緒にさせていただく中で、令和5年度の活動の中から課題共有をして具体的な活動に繋がった例や、今までも出ていたが、なかなか地域での取組が難しいという話がでてくる点などに触れて、皆様から情報やご意見をいただけたら幸いです。

まず、1つ目ですが、子ども・子育て世代への支援に関わる新たな活動です。こちらについては、生活支援体制整備事業では、ちょっと支援があれば元気に暮らせる高齢者の方々

が中心になると思いますが、昨年度地区の中ではお子さんや子育て世帯への関わりについての課題がでたところがありました。親御さんが就労している間の子どもがどのように過ごしているのか、子どもが自由に集うことができる場所がないという地区がありました。そのような課題の共有から、取り組みに繋がったという報告になります。

なぜ、この場で報告をするかという、1番の下の方に書いてあるとおり、お子さんの取組であっても、地域の大人たち、地域のシニアの方たちが活躍をした場面と言うことで、紹介をさせていただきます。

令和5年度の一つ目としては、海岸地区で、サマースペース海岸という取組がありました。これは夏休み期間中のかなり長い期間、お盆の期間と土日を除くほぼ毎日、お父さんやお母さんが仕事のため一人で過ごす時間が長い世帯のお子さんを安心して楽しく夏をすごしてもらえたらということで実施されています。

こちらは、課題共有をした中で、民児協を中心に地区社協、地区の校区推進協、まちぢから協議会、包括支援センター、市の地域福祉課、市社協等が協力し、どのような場づくりをするかを協議して実施されました。

お子さんたちは、資料に記載の通り、全日程で延べ400人近くのお子さんがいらっしました。大人についても延べ200人前後の協力があつたと聞いています。

お子さんが毎日来られる中で、地域のシニア世代の方々が色々なプログラムを用意したりして、見守っていただき、安心して過ごせる場が提供されたということでした。

もう1つは、浜須賀地区で、はまかんこどもの家というのが開催されています。こちらは、知らないお子さんが急に訪ねてきて、トイレを貸してと言われることがあったりするという話があり、お子さんが安心していられる場所があつたらいいよねということで、夏休みにちょっとお試しにやってみようということで取組がありました。

こちらは夏休み期間中の10日間の予定でしたが、荒天のため1日休みになり、9日間の実施になりました。こちらでも地区社協はじめ、民児協、包括支援センター、校区推進協、小学校のPTA、行政や市社協も関わり、地域の会館やまちぢから協議会にも協力してもらい実施されました。こちらは、9日間で延べ170人近く、大人の方も60人前後の方に見守っていただいています。

この活動はお子さんの見守りという活動ではありますが、お子さんや子育て世代とシニア世代との出会いや交流の機会として活用されたと思っています。お子さんも終わってからのアンケートによると、大人の人に見守られながら過ごせた安心感や会ったことのない、おじいちゃん、おばあちゃん世代の方と楽しく過ごしたとか、色々なことを教えてもらったという感想で、嬉しかったとか、親御さんからも安心したという声も届いていました。関わったシニア世代からも、とても元気をもらったとか、自分たちでできることもあるんだなってことを実感したという声をいただいています。出会いの場だけではなくて、そう

した実感から、自分たちで今後何ができるかということに繋がっていく、良い例だったと思っています。

地区では多くのシニア世代の方が自治会をはじめ、地域の運営のために活動されているが、今それらを繋いでいく次世代との接点ということがどこの地区でも課題になっているかと思う。この課題感からも、報告したお子さんや子育て世代にスポットを当てた場面づくり、このような交流機会を作ることが地区の運営を繋いでいくとか、その中に若い世代の力を取り入れていくというような、繋がりという意味で、とても大きな活動だと思っています。

繰り返しお伝えしているように、お子さんを大人やシニア世代が見守る活動としていても、地域に顔見知りが増えるという作用については相互に享受できるものであるかと思えますので、独居世帯もどの地区でも増えているという話を聞いているので、そのようなことを考えると、シニアを気にかけてくれる人が地区の中に増えてくるところでも大きな意味がある活動と考えています。

2番目は、地区の中のゆるやかな見守り合いということで、私たち推進員は地区にお邪魔して、課題を検討する会議などに出させていただいたり、主催をして運営していたりすると、お子さんの取組以外にも地域での見守り合いが必要ではないかと、どのようにそのようなことに取り組んだらいいかという話題が出てきた地区もありました。

お子さんのことでは、登下校の見守りという形で、そのようなことを入り口とした話題も出ますが、見守りが必要だということであがる対象としては、皆様もご存知な 8050 世帯、高齢の親御さんと壮年期のお子さんの世帯、認知症の方がいる世帯、独居の世帯、そもそも一人という方もいるが、ご家族でいたけれども一人になったという世帯なども見守りが必要という話が出ています。

認知症の方々への関心は、地区の方も高いので、取組としては声かけの訓練を皆さんで訓練としてやる地区もあったり、普段の中で参加しやすい見守り活動はどういったものか、特定の人ではなく、みんなが気軽に参加できる見守り活動は何かということで、鶴嶺東地区では、バッチを使って見守り活動を普及させようと言うことを検討していたり、鶴嶺西地区では、家庭菜園で作ったお野菜を届ける活動なども検討、実施されています。そのような場面やサロンに出てくるところから繋がりづくりをして、見守りに繋がっていくという話題が出た地区もありました。

ただ、見守りはした方が、出来たらいいよねという話題はでるが、課題を抱えるお子さんの世代と暮らす高齢の親御さんが、世帯の中で何か問題を抱え込んでいるときに、それをどうやって発見できるのかというところについては、皆さん非常に難しいと感じているという声をよく聞いています。

ご夫婦で住んでいたけれども、どちらかが亡くなられて、お一人になってしまうと、地

地域の自治会の役割などができないということで、本来は繋がっていた方が良い人が、自治会を退会したいですと言う形で、繋がりが切れて行ってしまうということをどのように繋ぎとめたり、繋がりを保ったりしたらいいのかというところも悩みところになっている。

先ほど2グループでも出ていましたが、介護予防などで出てきてくださる方は良いのですが、出てこれない方、その方たちをどうやってつかんでいくかということも難しいという話が出ています。

3つ目については、外出、移動、買い物などの支援に関する検討継続です。こちらは今までも出ている課題ですが、引き続き地区の中では、普段の買い物や地区の行事に出ていくのに困っている人がいるということも話題に挙がっています。

そのような課題も引き受けながら、地区社協連絡協議会と一緒に課題があるということとを共有して、実際どのようなことで困っているのか、今実施されている取組は何があるのかということとを事前に共有し、行政との懇談会を調整しています。

主に上がっている中で、大きく分けると、買い物に行くのに困っていると、地区のイベントや行事に参加するという部分に、地区の方々、地区社協やボランティアさんが着目をしています。

困っている理由は、歩くのが困難なので行けない、自転車に乗れない、場所が遠くて自分ではいけないが、家族も一緒にいないから行く手段がない、交通機関がないわけではないが利用しにくいとか、限られるというような事情があるということでした。

そのようなことを把握した上で、各地区で資料に書いてあるような取組に既に取り組まれているという例もあります。さきほど鶴田会長から報告があったおでかけワゴンを湘南地区はしていたり、松林地区などでは地域の施設が協力をして、デイサービスなどの通所サービスに使っている車を、動いていない時間に、車と人を協力していただき、行事等の送迎を支援していただくという取り組みをしていて、最初は1つの施設だったが、そういった事例を共有した上で他の事業所が令和5年度には参加していただいたりなど、拡がりを見せています。

このような取組について、どこでも困っていると思いますが、公共交通機関にということについては、地区では難しいところがあるので、それぞれの地区の中でどのようなことができそうか、どの部分なら地区で支えられるのかという部分について考えていくのが今後のポイントとなりそうだと思います。

車を使うということだけでなく、地区の方々には、行事の開催回数を分けたり、場所を色々移したり、買い物に歩いていくことはできるが、ずっと歩いていると疲れてしまうので、ベンチを町内に設置するとか、そのような工夫をされています。そのような課題を見聞きして、自分たちの地区でどんなことができるのかということとを絞り込んでいくということところにも、色々な情報がヒントになると良いと思っています。

第1層の方（構成員）からも、地区に協力、こういったことはできそうだということや、各団体で把握されてる課題で、私たちはこんな風に対応しているよなど、私たちはちょっと関わりが難しいけれど、地区の人だったらこういうことに関わってもらえるかなという話など、そのようなことを含めて地区のヒントになる情報をいただけると、第2層の推進員が地域の方々と繋いで、一緒に取り組むことに繋がっていいかと思い、ご紹介をいたしました。

報告は以上になります。

【質疑応答】

松尾議長：例えば、サマースペース海岸について、立ち上げの経緯はどのような感じだったのか。まずどこから話が立ち上がって、どのように活動したから実ったというような、経過について教えて頂きたい。

加藤推進員：一つの地区は、地域の中でお仕事から帰ってくるまでの間で、お子さんが1人になってしまっているということで、それを地域の方が実際に預かっている方がいるが、その人が1人では負担なのではないかという声から、地域で支えていく必要があるのではないかということが会議の中で話題になりました。もう一つの地区も似たような形で、地区の中に集まれるコミュニティホールのようなところや、公民館の中でお子さんが遊んでいるような地区はありますが、そのような場がない地区で、なかなかそういう面がないということで、本当に知らないお子さんが急にピンポンって来て、トイレを貸してくれますかとか、お菓子もらっていいですかという話が出てきたりするということになる、どのようにこの子どもたちに対応していったらいいのか、見守っていったらいいのかということが会議に出ていたという話があり、いずれにしても、お子さんたちが安心して過ごせる場所があると、親御さんたちの支援にも繋がるのではないかとということもあり、地域でどんなことだったらできるかを話し合ってみましょうということや、そのようなことをネットワーク会議という各地区の会議の中で検討していました。

それから、話し合っているだけでは形が見えないので、実際にお子さんを預かったり、見守ったりする活動をしているところに見に行くことで、こういうパターンだったらできるかもというようなことや、ヒントを教えてもらうなどして、形に結び付けていったというところです。

会議の中に出ている人だけでは難しいので、お子さんに関わる団体にお声か

けをすることを提案したり、その中で関わる方を増やして、皆さんで協力していただいて、活動に結び付いたというところです。そこを私たち職員が、立ち上げまで一緒に伴走しながら見守って、一緒に立ち上げて、今も活動を見に行ったりしているような形になります。

小山構成員：加藤さんありがとうございます。よく分かりました。今の回答の中にネットワーク会議というのが初めて出てきたんですけど、これはいつ頃、どこが主導で立ち上げて、今例えば 13 地区全部にあるのか、或いは、どういう構成団体がネットワーク会議に入っているのか、教えて頂けたらありがたいです。よろしくお願いします。

加藤推進員：ありがとうございます。古くいくと、平成 23 年とか、その頃から地区での課題を共有する場面を作っていこうということで、市の事業に我々も委託を受けて一緒にやってきた経過がある中で、課題共有の場として、ネットワーク会議というのが、13 地区に順々に出来てきて、今の時点では全地区で会議が行われています。

当初スタートした時は、我々と市役所の職員と包括支援センターの中にあった福祉相談室というところがあったのですが、その人たちと、地区社協のボランティアセンターには課題がいっぱい集まってくるのではということで、ボランティアセンターの方々と、というところが中心で立ち上げをしたんですが、その後、民生委員さんも色々な課題を把握されているだろうということや、地区によっては地区社協本体の方が参加されたり、自治会の方にも出ていただくよというような形で、いろいろ地区によってこういった方をお呼びしたいという方を呼ぶ形式に今はなっていますので、ここにあるように、推進協の方も出ていたり、場合によって、その検討内容によっては、他の学校、支援学校からも来ていただいたりという形で、一緒に課題を勉強したりする場面にもなっています。

②グループワーク

テーマ「地域の課題解決に向けて、各団体や地域で取り組めること」

説明 【第 1 層地域支え合い推進員：太田 雅世】

ここからは、第 2 層地域支え合い推進員からの報告にあった各地区での取組や課題を参考に、「地域の課題解決に向けて、各団体や地域で取り組めること」をテーマに、グルー

ワークを行います。

司会と書記は先ほどのグループワークと同様です。発表者は同じ方でもいいですし、あらためて選んでいただいても構いません。

グループワークの時間は30分間といたします。発表は各グループ5分程度でお願いいたします。

事務局からの説明は以上となります。各グループの司会の皆様、進行をお願いします。

【グループワークの実施】

「地域の課題解決に向けて、各団体や地域で取り組めること」をテーマに、3つのグループに分かれてグループワークを行った。

【グループワーク結果の発表】

グループ3 発表者【NPOサポートちがさき 小山 紳一郎】

まず、老人会の会長から、柳島小ですかね、集団登校がいろいろな経緯があってなくなってしまったのですが、見守り活動の多くを老人会が担っていると、色々難しいので、今後はもしかしたら下校時だけの見守りが中心になっていくのかなと言う話がありました。

今日は加藤さんからすごく役に立つ、貴重な情報を教えて頂いたのですが、話を聞いているとネットワークの中に福祉NPOが入っていない。地区によっては結構いい動きをしている福祉NPOもあると思いますから、もちろんテーマによるとは思います、毎回参加する必要はないかもしれませんが、ぜひ福祉NPO的なものもメンバーの1つとして想定していただけると良いのかと思います。

それから、今日の資料の中で、こんないい事例が生まれたというのがありましたが、例えば、加藤さんが地区に行って、どういう会議に出て、どんな働きかけをして、その結果どうなったというプロセスが今日の資料から見えなくて、そういうプロセスが見えるような何か資料があったら、さらに良かったなという風に思いました。

もし、そういう資料を作っておくと、他の地区にもその知見がシェアできる可能性がある、ので、できたらそういうものがあるといいのではないかという話がありました。

多分、福祉相談室がなくなった直後ぐらいのタイミングだと思うのですが、地域包括支援センターを中心に社会資源の調査をしたと記憶しています。たとえば今日、家庭菜園から採れた野菜を流通させるみたいな、すごくいい事例があったんですけど、そういう見えてきた社会資源をデータとしてリニューアルしていくような仕組みが必要なのではないかという話が出ていました。

一般論として、社会資源のマップなど作ると、10年ぐらい塩漬けになっていたりする、せっかくその社会資源のデータを調査したのであれば、それをどんどん更新していく、で

できれば、地区ごとじゃなくて市全体で、共有出来たら、更にいいと思いました。

今日、買い物支援について、各地区で色んな良い取り組みをしているというのがデータとしてあったのですが、各地区の名前があって、どういう取り組みをしているというのが、一覧で簡単に見えるようなものがあれば、たとえば、NPOサポートちがさきの方で、この地区でこんな取組しているので、お宅の地区でも、こんな関わり方ができるのではないかなということもお伝えできるのかなと思いました。

この取組は既に終了してしまったのですが、松浪地区地域包括支援センターで「趣味の冊子」という、すごく素晴らしい取組をされていました。これ、ご存知の方はどのくらいいらっしゃいますか、結構いますね。こういう取組が、社協と地域包括支援センターが協力しながら、もっともっと芽生えてきたら、素晴らしいなあと思いました。

（松井構成員）終了したのですか。

（小山構成員）紙媒体の冊子としては終了しています。

（事務局）冊子としての発行は終了し、デジタル化したと聞いています。

さきほど社会資源の話が出ましたが、例えば南湖地区に酒屋があって、そこは地活センターの福祉用品の販売場所になったり、着物のリメイク活動をしたり、地域の企みごとの拠点となっている。そのような感じで、一見なにか社会福祉と関係がなさそうなお店が、もしかしたら貴重な社会資源になっているかと言うことで紹介させていただきました。

それから、グループのメンバーから孤立・孤独対策の法律ができたのですが、茅ヶ崎市ではどこの所管で、どんな取組があるのでしょうかという質問があり、おそらく地域福祉課が所管課になりそうだけれども、具体的な取組については、次の実施計画の中で対応していくことになりそうだ、という回答がありました。

最後に、老人会の加入率が低くなってきていて、もっと加入率をあげたいなあという悩みについての話もありました。

グループ2 発表者【茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 石黒 秀樹】

地区社協から、鶴嶺西地区では今年から子どもの居場所づくりの活動を始めたということで、海岸地区の取組をみて検討したとのことでした。

もともとコミセンに小学生が30名ぐらい毎日集まっていますので、本当に必要なのかというところから、本当に必要なのかというところから関係団体が話をして、参加する子どもの偏見や差別などに繋がらないように、気をつけようよということで始めたそうです。

当然、シニア世代の活躍の場になっているんですけど、親御さんは預けたらそのままということで、相互関係の交流機会を期待していたけれども、ちょっとそこは将来のためにということでやっているところもあるということでした。

あとは、地区社協、民生委員、シルバー、ボランティアなど、いろんなことを一人でや

っている方もいるようで、隣近所だけで活躍している人もいます。

シルバーさんの方で、お子さんに関わる事業もやっているようで、主に学童保育に人を派遣して、交流をして、という話がありました。

買い物や外出支援について、地区社協ではボランティアが自家用車で病院の送迎をするということもされているそうです。そこは、タクシー料金が低いのも影響しているというお話でした。介護事業所に対して、車の貸し出しなども協力できるのかということで、空いている時間に車を貸し出すことはもしかしたらできるかもしれませんが、運転手まではどうかなというところと、このような話をどこにつなげばいいのかというところで、まずは事業者連絡協議会の方でそのような取組に協力できませんかというような相談のメールを流したりすることはできますが、事業所とのコーディネートまでは難しいかなという話をしております。

介護事業ボランティアからは、事業に参加してくる人は割と元気で、困っているという話は少ないそうです。ただ、人と話したり、会ったりすることで元気になる方も多いということで、あとは、足腰が痛いという話はその中であるそうです。出てくる場があるというのはとてもいいことだという話がありました。

商工会からは、高齢化しているようで、次を繋ぐ人を探すのに苦労しているという話がありました。

最後に、見守りについて話し合いました。高齢夫妻が1人になった時に認知症であったりすると、どう地域で関わったらいいのかという話がありました。ケアマネジャーもその地区にいつもいるという訳ではないので、近くの人たちに繋いでいただけることが重要ではないかということと、顔を知っている近所の人、いろいろ助けてくれるところに安心するのではないかと話がありました。以上です。

グループ1 発表者【茅ヶ崎市地域包括支援センター 濱田 栄子】

1 グループ（のメンバー）は、地域の部分は包括と民生委員なのですが、あと事業者連絡協議会と社協ということになりますが、非常に職の担い手が少なくなって、介護保険の現場、市社協の職員、市の職員というところでも、非常に、担い手というところで、働き方改革という部分、そこも非常に大きな課題となっているという話が一番最初にでました。

その中でも介護業界の中で、事業者連絡協議会でも中学生の方たちに動画を、福祉の世界の、いろんな職業見学などもさかんにやってくさっています、そういうものを一緒に作るなど、興味を持っていただくような会を、世代を超えた、そういう方の力や視点というのも生かして、これから出来上がりそうだという話がありました。

地域の方たちと、というところでは包括としては、高齢になってゴミの当番ができなくなるとか 自治会の加入率低下に加えて、高齢になって近所との関わりも薄くなっていく、

その部分に何か政策が出来たらというところは鶴嶺東で出ていたので、お話をいたしました。

もう一つはお子さんの送迎、事例としては障がいがあるお子さんの登下校の支援というところで、ボランティアセンターさん、民生委員さんが協力してというところで、そのような社会資源の活動もありますが、全体的に共働きの世帯が多くなって、お子さんの居場所づくりと言う話がありましたが、どの地域でも課題になっているのではないかと、安全に、安心して生活できるお子さんの、特に夏休みになります。その情報共有と課題があるのではないかと。

そして、最初の人確保が難しいという中では、一人一人がどう働きたいか、もしくは職場の環境がという中で、管理者であるメンバーも多いのですが、DX化が進んでいるというような機能的な部分というのも、介護業界にもIT化が入ってきています。そのような中で若い人との考え方とか、組織を作っていくこちらサイドの意識も必要になっているという意見が出ました。

先ほどの見守りという部分では、ネットワーク会議や見守りの体制、登下校の見守りも含めて、ネットワークを継続していくことが大事だということでした。

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

ありがとうございました。様々な団体の代表の皆様から、様々な視点で意見をいただきまして、とても参考になりました。昨年、私は初めてこの事業に参加しましたが、今年の方がより活発に、いろいろな意見が出たと思っています。非常に盛況で良かったです。

事業の方も実りが出てきているなという感想を持ちました。大変喜ばしいことだと思っています。

どうしても担い手の不足というのはあらゆる業界、あらゆる場面であるもので、一方、対象の高齢者については、今、爆発的に高齢者人口が増えていますので、ニーズも際限がないという状況で、そういったことに相対する立場として、どのように対応していくのかというところが、考えると不安になることもあります。

そういった中で、みんな同じような立場で、このような世の中に相対しているところがありますので、ぜひ力を合わせて、知恵を絞って、何とか乗り越えていきたいなという風に思っています。

今日はすごく前向きなご意見も、あとは新しい視点もいただけたと思っています。ありがとうございました。

では、本日いただいたご意見につきましては、構成員の皆様所属する各団体の方に持ち帰っていただきまして、情報共有をぜひしていただきたいということと、またご意見ございましたら、第一層の地域支え合い推進員の高齢福祉課の方にフィードバックをいただい

ればと思っております。

(3) その他

【事務局】

今後の予定について、本日グループワークで検討していただいた、前半の暮らしを支える地域の情報サイトについての周知についての取り組み、後半の地域の課題解決に向けて出来ることについて、何かこの一層協議体として出来る事がないだろうかということを検討し、取り組んで行きたいと思っています。

また、昨年度までは新型コロナウイルスの対応もあり、年に1回の開催となっていたが、今年度は協議体をもう一度、1月か2月頃に開催させていただきたいと思っています。また開催については、ご案内させていただきます。

3 閉会

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

本日は、ありがとうございました。今後一層皆様からのご協力をいただければ幸いです。以上をもちまして、令和6年度第1回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体を終了いたします。

(以上)